

第2回総合体育館基本構想検討委員会 議事概要

1 開催日時・場所

令和3年5月31日（月）午後3時～午後5時15分
ホテルウェルビューかごしま

2 会次第

- (1) 開 会
- (2) 議 事
 - ① 需要予測調査結果について
 - ② 施設の機能，規模・構成等の検討について
 - ③ その他
- (3) 閉 会

3 議事概要

- (1) 需要予測調査結果について
 - ・ 事務局から，昨年度実施した需要予測調査結果について説明
- (2) 施設の機能，規模・構成等の検討について
 - ・ 需要予測調査結果も踏まえ，新たな総合体育館に求められる機能，規模・構成等について検討
 - ・ 各委員からは，「スポーツ振興の拠点としての機能」と「多目的利用による交流拠点としての機能」のバランスのほか，今後の検討に当たっての論点など，様々な意見が出された。
 - ・ 各委員から出された意見について，事務局において整理した上で，次回の検討委員会で再度検討することを確認

4 委員の主な意見（要旨）

- これまでの経緯から、県内市町村は「新たな総合体育館の整備」について関心を持っていると思われる。市町村立体育館との役割分担について、市町村との協議・調整が必要ではないか。
- 本県の課題である県域全体のバランス、均衡ある発展について十分に検討しなくてよいのか。
- 予算についてある程度の担保や保証がなければ、本件は県民からの関心が高い中で、単なる理想を帯びた夢物語に終わってしまう。
- 維持管理について、PFIや指定管理者などを選択するのであれば、公募などの関係もあることから、どのようなスケジュールを設定するのか、早めに検討することが必要である。
- 将来的に「鹿児島アリーナ」と新体育館のすみ分けをどのように考えるのか整理が必要ではないのか。
- 鹿児島県が想定している8千という収容人数は、移動席も含んだ数字なのか。言い換えれば、移動席を抜いたキャパシティは6千という理解でいいのか。コンサート時のMAXの状態を想定して考えるのか、整理が必要ではないか。
- 現体育館の老朽化、狭隘により、全国・国際大会はもちろん、県内の大会でさえ、十分に開催できないため、できるだけ早く体育館を整備してほしいというのが競技団体の思いである。「する」スポーツを重点に置いて考えてほしい。
- 障害者のニーズとして、バリアフリー化ということで、障害者や、高齢者を含むすべての利用者が公平に使用できるように配慮してほしい。（車椅子用のスロープ・エレベーター・駐車場の確保・観客席スペースの確保、トランスジェンダー用の更衣室、サウンドテーブルテニス用の会議室など視覚障害者に配慮した施設）
- 現体育館の機能を維持する、あるいは質を上げていくことをベースにプラスアルファをどうするのか。コスト面にも配慮しながら議論する必要がある。

- 全国大会や国際大会の招致を目標とした時に、九州でも、今後できる「佐賀アリーナ」などとの競争になるので、他県のアリーナと比較される中で、国際スポーツ団体や、日本の競技団体から選びやすい、もしくはこちらの方がいいと言われるような施設でないといけない。
- 市町村の施設が整備されてきた現在において、市民の「する」スポーツは、身近な市町村の施設でやるべきであり、県の拠点となる施設は、他の県と比べて見劣りしない「みる」施設に重点をおいてはどうか。
- 市町村にはないような、例えば、「スポーツミュージアム」や「スポーツ図書館」など、市町村ではできないことをやるという視点が重要ではないか。
- 静岡県の場合から、今ある「スポーツの拠点」、「運動の拠点」のところに、隣接あるいは近接する場所を選ぶことも考えられる。
- コンベンションとか、あるいは展示場のことを考えたら、バスなどの利便性が高いことが重要であり、街との連続性を考えると郊外すぎても困る。
- 現体育館は、全国的に劣後していることから発議された案件だと思うので、「アスリートファースト」というか、「スポーツ振興」を軸に置くべきである。
- 欠けてはいけない視点として、スタジアム・アリーナ改革でも言われているように、この施設がちゃんと維持・継続できるような財政運営が可能な施設内容としなければいけない。
- せっかく作るのであれば、まちづくりのコアとなるような施設、或いは起爆剤、話題になるような、鹿児島に行ってスポーツをしたい、或いはMICEをやりたい、コンサートをやりたいというような施設を考えるべき。「スポーツ振興」を前提に置きながら、収益性、地域振興、経済活性化も併せて考えていくべき。
- 鹿児島に来ることで交流人口が増え、経済効果が大きくなる。MICEをやると婦人同伴で来るし、エクスカージョンもあるし地域振興、観光にも繋がっていく。機能、規模、収益性を考えていくべきである。日本にある横並比的な施設だけを参考にではなく、先進的な事例がないのか、或いは海外にも先を進んだところがないのか調査をするべき。

- 現体育館は、競技によっては試合だけでなく練習にも使えないなど、老朽化や狭隘の課題があり、これを踏まえると、競技面数は4面程度が必要ではないか。
- 各委員から意見があった「収支の観点」は非常に大事。この議論は競技面数なんてどうでもいいというくらい大事である。
- 鹿児島県が「スポーツ振興」に軸足を置くのであれば、「する」スポーツのためにどういう環境が必要かという論議が必要である。
- 総合体育館という用途上、「スポーツ振興」の方に重きを置く必要があるのではないか、その中で各競技が過不足なく開催できる規模・機能が絶対条件になってくる。メインアリーナ・サブアリーナを含めた運営上適切な規模を求めることが重要である。
- 「みる」スポーツの機能というのは、スポーツ利用において上位にあるので、「みる」視点で施設を整備すれば「する」視点は包含される。
- 「障害者」に配慮した施設を作れば、「健常者」にとっても抜群に利便性の高い施設になる。